

## 5 - 13 東海地方における地殻変動連続観測

### Continuous Observation of Crustal Strains in the Tokai District.

名古屋大学理学研究科  
地震火山観測研究センター  
Research Center for Seismology and Volcanology  
Graduate School of Science, Nagoya University.

東海地殻活動総合観測線において観測された伸縮変化について報告する。

第1図に観測点の配置を示す。降雨の影響が比較的少ない豊橋・稲武・旭・瑞浪における伸縮変化を第2図から第5図に示した。これらの観測点は、国土地理院によるGPS観測から、2000年の年末頃から特異な変動が生じ、現在もその変動が持続していると考えられている地域に位置している。

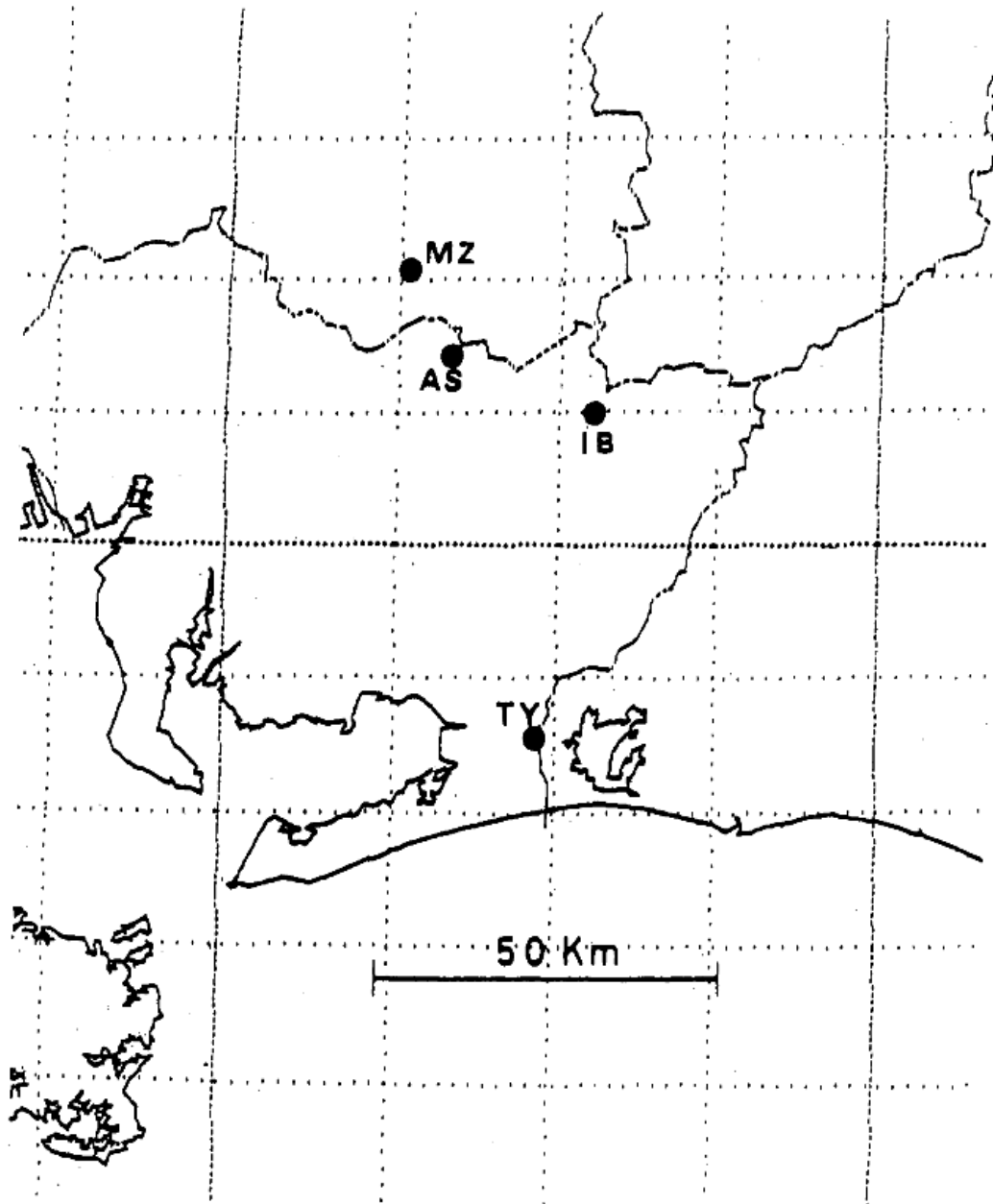
第2図に豊橋(TY)観測点の1974年1月から2001年10月までの伸縮変化を示す。図に見られる短周期のスパイク状の変化は降雨による影響である。2000年から2001年にかけての変動は過去に観測された変動より小さく、問題の期間中に異常な変動が生じたとは思われない。

第3図に稲武(IB)観測点の1994年1月から2001年10月までの伸縮変化を示す。図示した期間中は2方向が伸びる傾向が継続しており、1998年11月頃のセンサーの交換に伴う擾乱を除けば、問題の期間中に異常な変動が生じたとは思われない。

第4図に旭(AS)観測点の1994年1月から2001年10月までの伸縮変化を示す。図示した期間中は、3成分とも伸びる傾向を示しており、問題の期間中に異常な変動が生じたとは思われない。

第5図に瑞浪(MZ)観測点の1994年1月から2001年10月までの伸縮変化を示す。図示した期間中の2000年11月に見られる大きな擾乱はセンサーの交換に伴う変動である。また、2000年11月まで2成分で観測された大きな収縮変化は、観測点周辺で核燃料サイクル機構により掘削された複数のボーリング孔の掘削工事と対応する変動であり、掘削に伴う地下水面の変動の影響であると考えている。また、問題の期間中の2000年11月頃の収縮から伸張への反転も、ボーリング孔の揚水を止めたことの影響であると考えている。

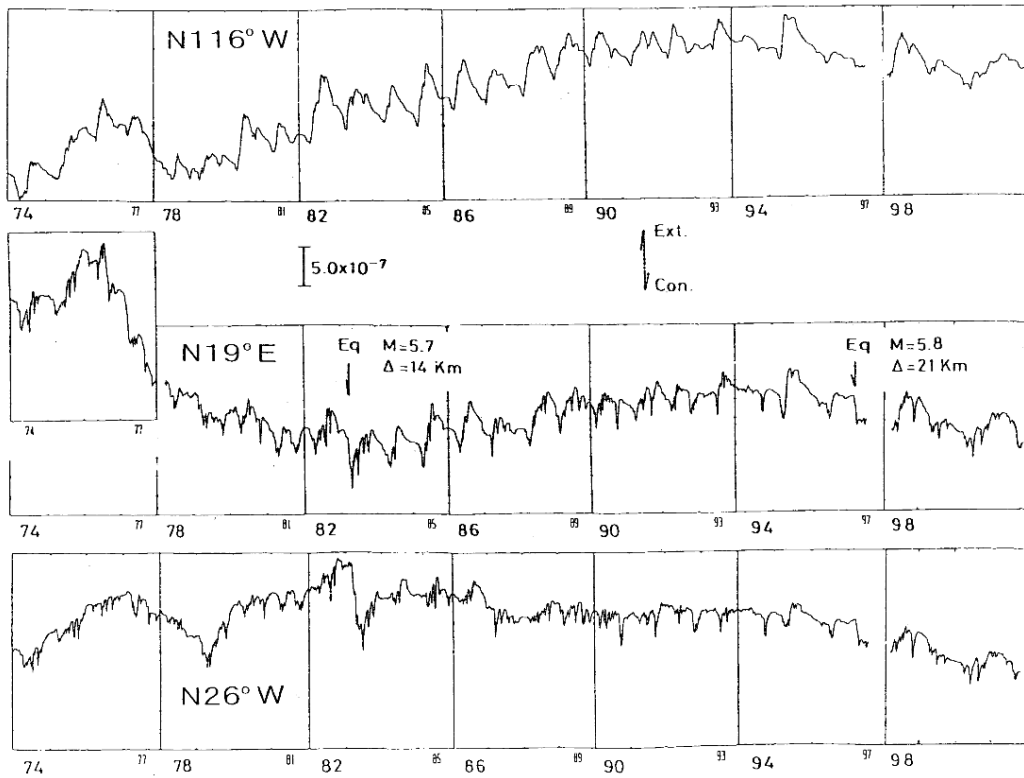
地下水面の変動の影響をあまり受けないN58°W方向の伸縮変化を見る限り、問題の期間中に異常な変動が生じたとは思われない。



第 1 図 観測点の配置 .

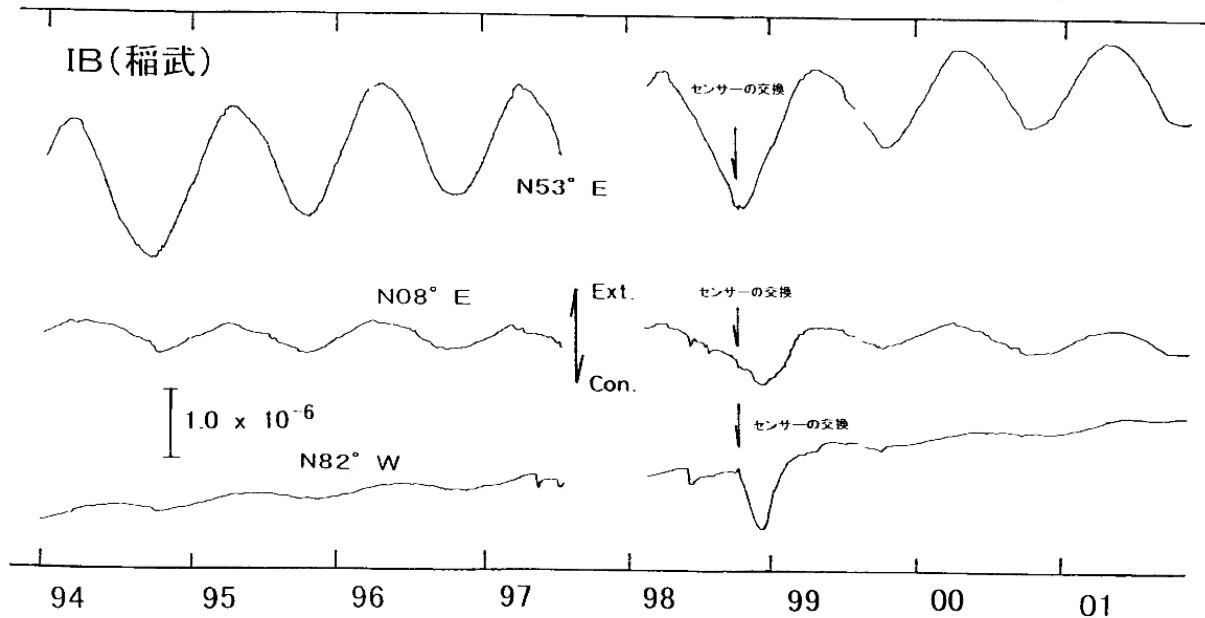
Fig.1 Location of observation stations.

TY(豊橋)



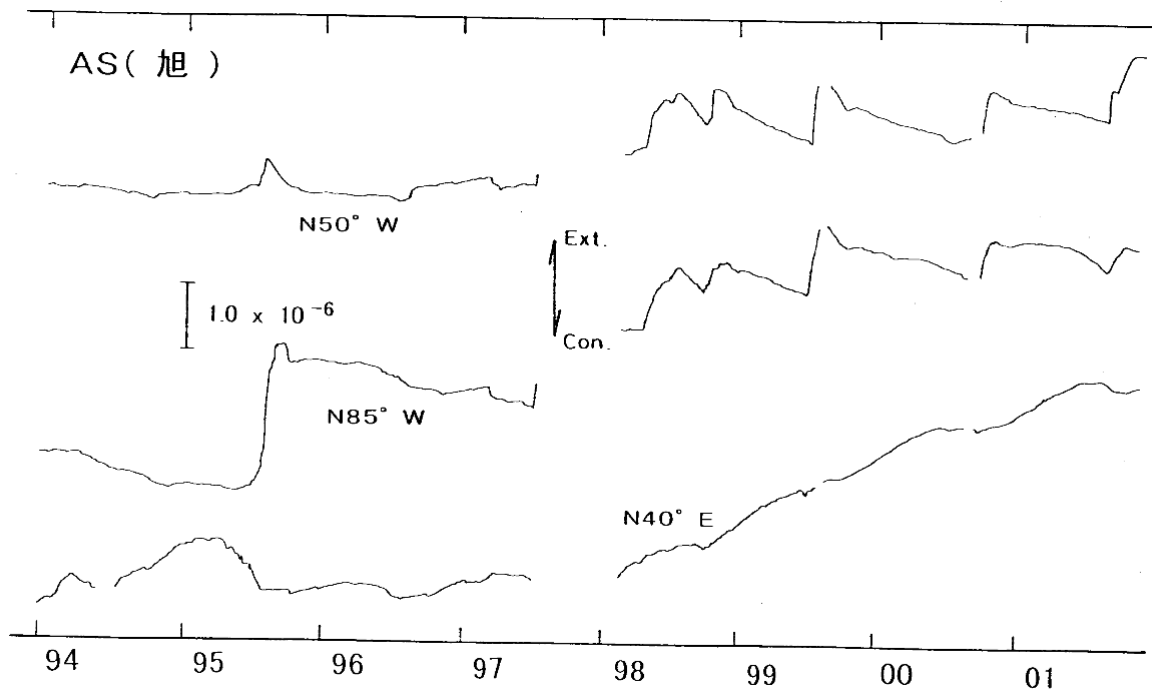
第2図 豊橋における伸縮変化(1974年1月から2001年10月)

Fig.2 Strain changes observed by extensometers at Toyohashi, for the period from January, 1974 to October 2001.



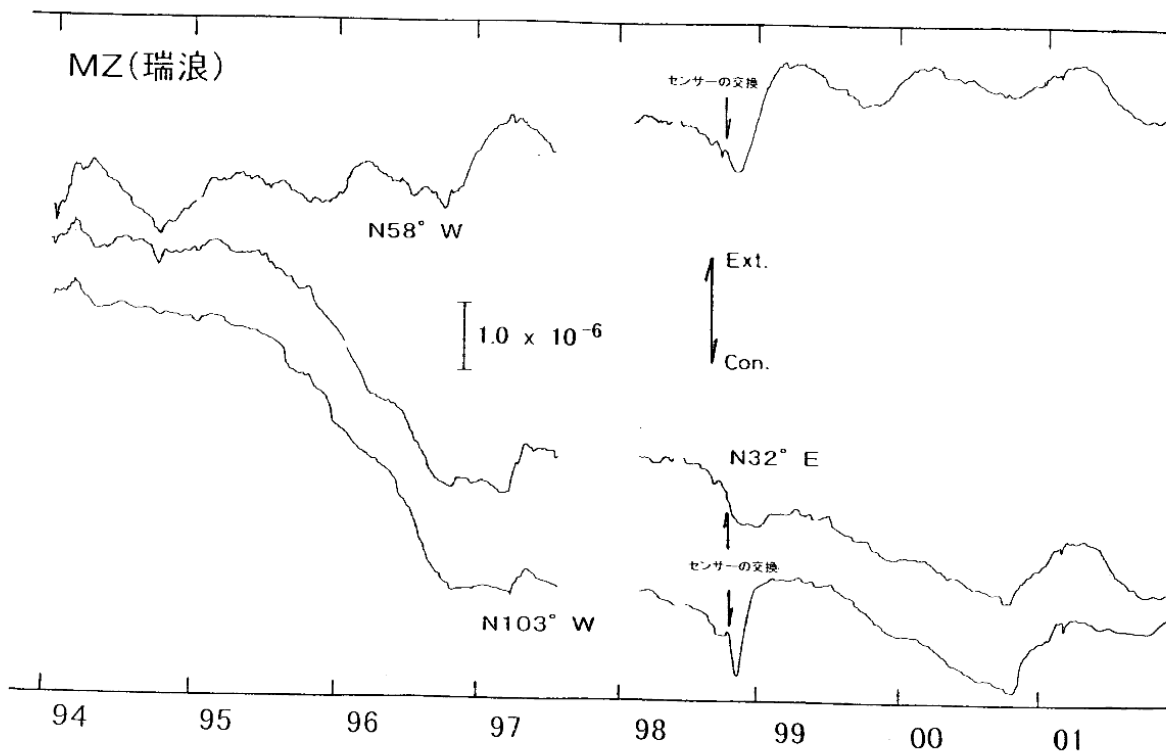
第3図 稲武における伸縮変化(1994年1月から2001年10月)

Fig.3 Strain changes observed by extensometers at Inabu, for the period from January, 1994 to October 2001.



第4図 旭における伸縮変化 (1994年1月から2001年10月)

Fig.4 Strain changes observed by extensometers at Asahi, for the period from January, 1994 to October 2001.



第5図 瑞浪における伸縮変化 (1994年1月から2001年10月)

Fig.5 Strain changes observed by extensometers at Mizunami, for the period from January, 1994 to October 2001.